

世界にはばたくお茶大生

お茶の水女子大学では、「グローバル女性リーダーの育成」をミッションに掲げ、多様な留学プログラムや留学奨学金制度を備えています。現在、学生に占める留学率は、国立大学中2位^{※1}であり、在学生の留学に対する関心も高くなっています。今回の特集では、本学のグローバル教育について、国際教育センター長 森山 新教授にお伺いします。

赤松: コロナ禍ながら留学を考える学生も出てきています。まず、本学の留学制度について、教えていただけますか。

森山: 大きく分けて、交換留学と短期留学の2種類あります。交換留学は、1学期間、あるいは1学事年度滞在する留学で、本学との海外協定校^{※2}に留学します。一部例外もありますが、本学の授業料を納めることで留学先の協定校の授業料が免除され、また先方の学生と一緒に授業を受けることができます。一方、短期留学は、協定校などで開催される語学研修をはじめとした各種研修プログラムに参加するもので、夏季休暇あるいは春季休暇を利用し、2週間から6週間の期間参加します。

赤松: 交換留学をしたい場合、どのように準備を始めたらいかが、教えてください。

森山: まず所属する学部学科の教員に相談することを勧めています。学部生ならその4年間をどのように過ごすかに関係するからです。留学中取得した単位は協定校であれば単位

互換ができますので4年間での卒業も可能ですが、留学により、本学でないと履修できない科目などがある場合、4年間での卒業が難しくなる場合もあります。また何よりも留学する目的を明確にすることが大切です。留学先を国や地域で選ぶ学生がいますが、留学は海外旅行とは異なります。留学とは単に国際経験を積むだけでなく、派遣先大学で学ぶことが第一の目的です。自身が学びたい内容について、どの大学や教員から学べるのかなど、協定校のウェブサイトや国際教育センターの冊子などを見ながら、具体的な計画を立てることが重要です。

赤松: 留学をするには、語学力を身に付けることも必要ですね。

森山: そうですね。留学先を決めるときに、希望する大学が求める語学力と成績を確認する必要があります。英語圏でなくても英語で学べる協定校もありますので、英語力が十分でない場合、非英語圏の大学で英語での授業に参加するなど、留学先の大学を再検討

するようアドバイスしています。多くの学生は、2年時の9月から交換留学をします。その場合、1年生の10月の募集に申請するため、それまでにサマープログラムや短期研修に参加するなどして、語学力を高めておいた方がよいでしょう。2年時の10月に交換留学の応募をする学生も増えていますが、2年生で応募、3年生で留学する場合、就職活動が遅れたり留年したりする可能性が出てきます。よって国際教育センターでは、新入生の留学オリエンテーションで、早め早めに留学の計画を立てよう促しています。

赤松: 大学院生で留学したいという相談もありますか。

森山: はい。大学院で留学する場合、内部進学制度を使い大学院入学後、すぐ留学する学生もいます。学部留学との大きな違いは、留学期間中に、授業だけでなく、修士論文、博士論文の研究を行う学生も少なくありません。ですから留学中の具体的な研究計画を立てることが特に重要です。大学院の場合、

単位互換できないこともあるため、留学前は必ず指導教員と国際教育センターに相談していただければと思います。

赤松: 長期の交換留学の場合、経済面で不安な学生もいると思いますが。

森山: 全員に奨学金を給付できるとは限りませんが、本学の留学に関わる奨学金は、かなり充実していますので、多くの方が奨学金をもらっていました。ですので奨学金制度は積極的に活用していただければと思います。英語圏では一般的に日本よりも物価が高いことから、経済的に不安な学生は、東欧、東南アジアなどの大学を勧めることもあります。最近では、オンライン留学も経済的な負担も抑えつつ、ある程度留学経験ができますので、これも一つの選択肢となり得ます。

赤松: このほか国際教育センターではどのような留学サポートをされていますか。

森山: 留学前には、国際教育センターが開催する事前授業への参加を必須としています。この授業を通して、異文化間理解や危機管理セミナーなど留学に役立つ知識を身につけてもらいます。また、留学中は、国際教育センターと連絡教員とが連携しながらみなさんの安全を見守っています。その他、本学は、民間の海外危機管理サービスと包括契約しているため、24時間体制で渡航中のサポートも行っています。

赤松: 長期の交換留学より、短期留学の方が気軽に参加できる印象があります。短期留学に参加したい場合は、どうしたらよいのでしょうか。

森山: 夏季短期留学は4月、春季短期留学は10月に説明会を行っていますので、まずはそれに参加していただければと思います。メーリングリストも作っていますので、留学に関係する情報を入手したい方は入っておくと思います。短期留学は、本学が企画し、一緒に渡航するプログラムや、協定校が主催し、個々人が参加するプログラムなど、様々な種類があります。語学研修が比較的多いですが、現地学生との交流や特別講演会に参加するなど、語学学習に留まらない内容になっています。

赤松: 森山先生は、これまで多くの学生の留学を見届けてこられましたが、留学前と留学後の学生に、どのような変化を感じられますか。

森山: 一番は積極性を身に付けることができたと感じます。日本の授業は、一般に受身的ですが、海外では、発言しなければ存在すら認めてもらえないことも多く、そうした環境で学ぶことで、自分たちのこれまでの常識が変わり、日本に帰国してからも、人前で積極的に自分の意見を言えるようになったと感じます。

赤松: 森山先生から、最後に学生のみなさんへのメッセージをお願いします。

森山: ぜひ若いうちに海外に出て、マイノリティの立場を経験してほしいですね。日本は、ほぼ他国に比べると均一性の高い環境ですので、多様性の中で揉まれてほしいと思っています。マイノリティの立場も経験することで、多様性を尊重することの大切さを実感できると言えます。これは、世界をリードしていくうえで大切なことです。私も、海外での学びは大きく自分自身を変えたので、柔軟な若いうちに、留学を経験してほしいと、強く願っています。

※1 THE 世界大学ランキング日本版2022年調べ

※2 本学との海外協定校 … 89大学
(2022年3月現在)

QRコードはこちら ▶



聞き手: 赤松 利恵

広報・学術情報担当副学長、広報推進室長
基幹研究院自然科学系 教授

学びのキーワード

交流型授業

COIL (国際オンライン協働学習) など主に英語を用いて海外の大学と交流する授業。サマープログラムや春に行われる国際学生フォーラムなどが代表的である。

ライティング、ビジネス英語、資格英語などの実践的な英語科目群から構成される。

ランゲージ・スタディ・コモンズ

共通講義棟 3 号館にあり、外国語学習相談や学習会、語学カフェに活用されている。視聴覚教材や語学検定教材、語学学習専用のシンクライアントPCもある。

ACTプログラム

コミュニケーション技術の修得を目的とした実践的な上級英語プログラム。プレゼンテーション、

令和4年度「大学の世界展開力強化事業」～インド太平洋地域等との大学間交流形成支援～に採択

- プログラム名称
グローバルリーダー育成のための「女子大学発」実学型EDIプログラム

文部科学省では、国際的に活躍できるグローバル人材の育成と大学教育のグローバル展開力を強化するため、日本人学生の海外留学と外国人学生の受入れを行う国際教育連携の取組を支援する「大学の世界展開力強化事業」を実施しています。

井出 麻李和 さん

文教育学部 4年
留学先:タマサート大学
(タイ)
期 間:2022年1月～
2022年5月

青木 安彌 さん

生活科学部 3年
留学先:ヴァッサー大学
(アメリカ)
期 間:2021年8月～
2022年5月

木村 こころ さん

文教育学部 4年
留学先:マンチェスター大学
(イギリス)
期 間:2021年9月～
2022年6月

小山 愛理 さん

生活科学部 4年
留学先:コペンハーゲン大学
(デンマーク)
期 間:2021年8月～
2022年1月

取材
小島 真凜
企画戦略課(広報担当)

聞き手
谷口 幸代 准教授
基幹研究院人文学系



受入留学生の
体験談について



留学奨学金に
ついて

留学経験者 インタビュー

コロナ禍での留学を経験した皆さんと座談会を開催しました!

留学を志した きっかけや目的について 教えてください。

井出 将来は国際協力に携わりたいと考えており、実際に途上国や中進国の貧困層の方はどのような暮らしをしているのかを学びたいと思いました。協定校リストから、女子学生一人でもフィールドワークがしやすい国を選び、留学先を決めました。

青木 高校2年生のときにオーストラリアで二週間ホームステイを経験し、現地の高校生が積極的に授業に参加している姿に感銘を受け、そういった環境に身を置きたいと考えました。専攻とは関係なく様々な授業をとることができるリベラルアーツ・カレッジで、留学後のキャリアについてより深く考えたいと思いました。

木村 価値観を広げ、自身をもっと成長させたいと考えました。私は美術史を専攻し、アートをもっと社会の中で活かしていくにはどうしたらよいかを考えていて、アートをより社会化していく動きが歴史的にある、イギリスの現場で実際に学びたいと考えました。

小山 大学1年生のときにサマープログラムに参加し、海外の学生が自分の意見を論理的に述べている姿に感銘を受け、積極的な姿勢がある環境で学びたいと思いました。社会福祉を専攻しており、幸福度が高いとされる北欧圏の大学で、学部生の授業を英語で受けることができる留学先に決めました。

現地での学びや 生活はいかがでしたか。

小山 興味があった社会福祉について、格差は正の促進を目指す価値観や背景を現地で深く学ぶことができました。全ての方を社会の中に包括し活躍してもらうため、教育システムなどを通じて、離脱した人を就労の場に戻す社会のあり方や、歴史がそうさせる面があった、土壌が元々あった、ということを現地で学び、自身にとってとても価値のある経験でした。

木村 クラスに留学生は自分だけという状況で、特にディスカッションの際には苦勞し、萎縮して何も言えず悔しい思いをしたこともありましたが、友人からアドバイ

スをもらい、努力を重ね、自分の成果を少しずつ積極的にアピールし、活発にディスカッションできるようになりました。

井出 タイでの生活は自分に合っていました。クロントイ・スラムで日本と関わりのあるNGOのインターンシップに参加し、様々な方と交流しました。道脇の屋台で売られているトロピカルフルーツなど、気軽に現地の食文化に触れることもできました。旅行したことも思い出です。

青木 勉強しない日があると不安になるくらい図書館にこもっていましたが、キャンパス内の食堂が私の留学生生活を支えたといっても過言ではありません。豊富なメニューの食事を楽しんだり、空きコマに勉強場所として活用したり、教授や友人と話をしたりとたくさんの思い出があり、留学生活で一番恋しいのは食堂で過ごした時間です。

学習面以外で大変なことはありましたか。

木村 新型コロナウイルス感染症流行の影響で、一時帰国の際は隔離など入国規制がありました。誰かがまとめた二次情

報ではなく、外務省や厚生労働省のHPなど、一次情報を自分の目で確認するよう心がけていました。

小山 情報を自分で一つずつ把握して備えていく経験は、振り返ると留学の醍醐味であったと感じています。

青木 ダウンタウンは昼間でも危ない地域があったため、単独で散歩するのは控えるなど治安の面で気を張りました。

井出 思わぬ怪我也もあったため、有事の際に連絡がつく現地の保険会社の連絡先を予め把握しておくことが自身の身を守るため大切だと感じました。

留学の成果と今後の 展望をお聞かせください。

青木 帰国後も勉強を続けたいと思える、「Global Political Economy」という学問に出会いました。学んだ理論を活かしながら、日本での問題についても調べていきます。また、自身の経験を通じて、お茶大に受入留学生としてきている方と仲良くなりたいと思っています。

井出 現地の方々の温かく寛容な人柄に触れ、恩返ししたいと思うようになりました。肌身で感じたことをもとに、自身がどのように国際協力と関わっていくべきなのか、深く考えていきたいです。

小山 知識の構造を学び、社会に対して今まで疑問を持たなかったことにも新たな視点を持てるようになり、今後の研究に活かすことができると思います。また、度胸もつきましたし、自分の考えを言語化して落とし込めるようになりました。

木村 いろいろな在り方があるアートをもっと身近に社会化したく、「アートマネジメント」という視点で新しい学問を学び、今後、行動を続けながら進路を決めていきたいです。価値観が広がり、選択肢が増えたことは良いことだと思っています。

留学を考えている方へ メッセージをお願いします。

全員 興味があればぜひ一歩踏み出してほしいです。不安は自分の努力次第で克服できますし、経験したことのない困難も、やりようによって意外となんとかなります。

留学中はとにかく必死ですが、頑張っていれば、振り返った際に多くの学びがあると思います。一生の財産となる貴重な経験ですので、ぜひ挑戦してみてください！



留学に関心のある学生の皆さん、「留学ガイド」がMoodleに掲載されていますので、ぜひご確認ください！

